「第 40 回京都府文化賞」受賞者の決定について

令 和 4 年 1 月 6 日
京都府文化スポーツ部
文 化 芸 術 課
電話０７５－４１４－４２１６

京都府では、京都の文化の向上に寄与された方を称えるため、昭和 57 年度から「京都府文化賞」を創設しています。

40 回目となる今年度は、「特別功労賞」５名、「功労賞」９名、「奨励賞」５名の計 19 名に賞を授与することとしました。

また、令和４年２月１日（火）に授賞式を開催しますので、ご取材いただきますよう、よろしくお願いします。

１　京都府文化賞 受賞者　19 名（敬称略）　※詳細は別紙

特別功労賞　５名 ※文化芸術活動において顕著な業績をあげられ、文化の高揚に多大の功労があった方に授与	人工知能ロボット工学者	金出　武雄（かなで たけお）
	文化財防災学（地震工学者）	土岐　憲三（とき けんぞう）
	陶芸家	林　康夫（はやし やすお）
	東洋史学者	間野　英二（まの えいじ）
第 40 回記念特別賞	文化振興	古典の日推進委員会 会長　村田　純一（むらた じゅんいち）
功労賞　９名 ※長年の文化芸術活動を通じ、文化の向上に功労があった方に授与	小説家	いしい　しんじ
	現代美術家	石原　友明（いしはら ともあき）
	美術家	伊庭　靖子（いば やすこ）
	箏曲家	大谷　祥子（おおたに しょうこ）
	音楽学者	岡田　暁生（おかだ あけお）
	歌手・俳優	沢田　研二（さわだ けんじ）
	繊維造形作家	ひろい　のぶこ
	和太鼓奏者・指導者	富治林　浩（ふじばやし ひろし）
	合唱指揮者	本山　秀毅（もとやま ひでき）
奨励賞　５名 ※新進の芸術家等で、文化芸術活動における業績が特に顕著である方に授与	写真家	金　サジ（きむ さじ）
	ピアニスト	田村　響（たむら ひびき）
	歌舞伎俳優	中村　壱太郎（なかむら かずたろう）
	音楽家	原　摩利彦（はら まりひこ）
	現代美術家	人長　果月（ひとおさ かづき）

２　授　賞　式

日　　時：令和４年２月１日（火）午前 10 時から 10 時 45 分まで
会　　場：京都ブライトンホテル地下１階「英の間」（京都市上京区新町通中立売）
出 席 者：受賞者及び同伴者、来賓（京都府議会議長等）（約 40 名）
授 与 者：京都府知事 西脇（にしわき）　隆俊（たかとし）

京都府広報監 まゆまろ

第40回京都府文化賞受賞者紹介

別紙

受賞者の特徴等	〔特別功労賞〕 車の自動走行の第一人者として活躍する、人工知能ロボット工学者の金出武雄氏や、古典の日推進委員会を立ち上げるとともに、「古典の日」の法制化にも尽力された、古典の日推進委員会　会長の村田純一氏らが受賞。 〔功労賞〕 歌手としてデビュー以来、日本の歌謡界を牽引するとともに、俳優としても活躍し、高い評価を得ている、沢田研二氏、新進箏曲家として、古典邦楽のみならず、さまざまなジャンルのアーティストと共演する、大谷祥子氏らが受賞。 〔奨励賞〕 女形のホープとして活躍するとともに、現代劇や脚本・演出など、多岐にわたる活躍が目覚ましい、歌舞伎役者の中村壱太郎氏、ピアノや電子音とともに、風の音など日常の多様な音を楽曲に組み入れた独創的な作品が高い評価を得ている、音楽家の原摩利彦氏らが受賞。

	氏　名	受賞者紹介	
特別功労賞	金出　武雄（かなで　たけお）	人工知能ロボット工学者	コンピュータによる画像認識研究に取り組み、顔認識プログラムの実用化に大きく貢献。また、車の自動走行の第一人者としても活躍。コンピュータビジョンと知能ロボット工学において、幅広い分野で数多く先駆的に貢献。
特別功労賞	土岐　憲三（とき　けんぞう）	文化財防災学（地震工学者）	耐震・耐火が専門分野。京都の文化遺産を災害から守り、後世につないでいくための「文化遺産防災学」を創出。また、多数の講演をはじめ、「明日の京都文化遺産プラットフォーム」の設立など、文化遺産を守り、育み、創造する様々な取組みを実施。
特別功労賞	林　康夫（はやし　やすお）	陶芸家	前衛陶芸の研究会「四耕会（しこうかい）」の結成に参加し、日本の前衛陶芸の先駆者として、用にとらわれない陶オブジェや、錯視を誘う立体的な作品を作陶するなど、常に新しい表現を追求し、海外でも高く評価されている。
特別功労賞	間野　英二（まの　えいじ）	東洋史学者	中央アジア史が専門で、インドにムガル朝を設立したバーブルの回想録『バーブル・ナーマ』の諸言語で書かれた写本を基に、30年あまりをかけて校訂本を作成。原本に近い貴重な文献として、世界的に高く評価されている。
特別功労賞（第40回記念特別賞）	古典の日推進委員会 会長　村田　純一（むらた　じゅんいち）	文化振興	古典をもっと身近なものとして人々に楽しんで欲しいと、「古典の日推進委員会」を立ち上げる。「古典の日」の法制化にも尽力され、日本の歴史や文化が色濃く残る京都から国内外へと、日本の古典文化の普及活動を実施。
功労賞	いしい　しんじ	小説家	奔放な想像力で読者を魅了する、現代を代表する物語作家として、多彩な才能を発揮。『麦ふみクーツェ』、『ある一日』、『悪声』で多くの賞を受賞されるとともに、京ことばで『げんじものがたり』を執筆されるなど、幅広く活躍されている。
功労賞	石原　友明（いしはら　ともあき）	現代美術家	一貫して自身の身体を題材に、皮革、プラスティック、ガラスなど多様な素材を駆使し、写真、絵画、彫刻、インスタレーションを混ぜ合わせた、常に新しい境地を開く作品を発表し、国内外で高く評価されている。
功労賞	伊庭　靖子（いば　やすこ）	美術家	日常にある素材をモチーフに、写真を描くという方法で油画を制作・発表。身近なものの「質感」にフォーカスし、光と色彩に満ちたエレガントで幻想的な世界を見事に表現して、国内外で高く評価されている。
功労賞	大谷　祥子（おおたに　しょうこ）	箏曲家	古典邦楽のみならず、さまざまなジャンルのアーティストと共演するなど、新進箏曲家として活躍し、数々の賞を受賞。「箏曲を通して日本文化の発展に尽くしたい」との思いから、国内外での講演会やコンサートなどを通じ、邦楽文化の発信に貢献。
功労賞	岡田　暁生（おかだ　あけお）	音楽学者	19世紀から20世紀前半にかけての西洋音楽史の転換期を研究し、高い評価を得ている。コロナ禍のあらゆる音楽が停止した状況をいち早く『音楽の危機《第九》が歌えなくなった日』として執筆し、小林秀雄賞を受賞するなど高く評価されている。
功労賞	沢田　研二（さわだ　けんじ）	歌手・俳優	斬新な衣装と度肝を抜く派手なパフォーマンスなど圧倒的なカリスマ性で人々を魅了し、数々の名曲を世に送り出す。舞台やドラマ、映画などで演じる役柄は幅広く、俳優としての才能も発揮され、高い評価を得ている。
功労賞	ひろい　のぶこ	繊維造形作家	羊毛や絹などの繊維に、金属や紙、貝、珊瑚などの異素材を組み合わせ、織る・組む・縫うなどの技法により、平面、立体、インスタレーションの作品を発表。創る人間の『手』のしごとをより大切にした作品が、国内外で高い評価を得ている。
功労賞	富治林　浩（ふじばやし　ひろし）	和太鼓奏者・指導者	長年数多くの太鼓チームを指導し、京都府における太鼓文化の普及と人材育成に努めるとともに、京都府太鼓連盟を発足し、指導者の育成にも尽力。近年では、邦楽やロックやダンスなどとも共演するなど、常に新しいチャレンジを続けている。
功労賞	本山　秀毅（もとやま　ひでき）	合唱指揮者	バッハを主とする宗教音楽を中心に演奏活動を続け、「京都バッハ合唱団」を設立するとともに、長年、全国の中高生への合唱指導や合唱コンクールの審査委員を務める。合唱音楽全般の普及に尽力し、高く評価されている。
奨励賞	金　サジ（きむ）	写真家	自身のアイデンティティの揺らぎから生まれた作品「物語」を韓国で開かれた釜山ビエンナーレに出展するとともに、第39回公募キヤノン写真新世紀でグランプリを受賞するなど、国内外で高く評価されている。
奨励賞	田村　響（たむら　ひびき）	ピアニスト	70年以上の歴史を誇るフランスの「ロン・ティボー国際音楽コンクール」において、弱冠20歳で第1位に輝き、一躍世界に注目される。磨き抜かれた技巧と豊かな叙情性が、国内外で高く評価されている。
奨励賞	中村　壱太郎（なかむら　かずたろう）	歌舞伎俳優	女方として、多くの大役を務め、歌舞伎役者として活躍する一方、現代演劇への主演や、「春虹（しゅんこう）」の名で脚本の執筆・演出に挑戦するなど、多岐にわたる活躍が目覚ましく、今後の歌舞伎界を担う存在として期待されている。
奨励賞	原　摩利彦（はら　まりひこ）	音楽家	ピアノ、電子音、邦楽器などとともに、フィールドレコーディングによる日常の多様な音を楽曲に取り入れた独創的な作品が高く評価されている。京都を拠点に国内外を問わず、演劇やダンス、現代アートなど、ジャンルを超えた共演も多く、幅広く活躍。
奨励賞	人長　果月（ひとおさ　かづき）	現代美術家	大型モニターや床、壁面に写した映像が、鑑賞者の動きに反応して変化する、「インタラクティブインスタレーション」作品を中心に多くの作品を発表。メディアアートと異分野のコラボにも意欲的に取り組み、多くの賞を受賞されている。